

令和7年度 第5回市長タウンミーティング 概要

- 日 時：令和7年9月27日（土）13時30分～15時
- 場 所：荒川農村環境改善センター 1階 多目的ホール
- テーマ：芸術文化振興
- 参加者：41人

○ 意見交換（主な内容）

発言者1：歴史文化研究会をしている会の代表として来た。近隣の市町村には地方史をまとめたものがある。秩父市にも市誌があるが、迫力が足らず一冊しかないので残念である。ぜひ新しいものを作成してほしい。また、秩父には立派な歴史があるので、博物館をつくってほしい。

市長回答：市誌については、文化財保護課が担当になるが、今後研究していきたい。

博物館については、あってしかるべきで、資料が朽ちていくのは良くないを考える。しかし、新しい施設を建設するにはコストがかかるので、公共施設の再編の中でしっかり見極めていきたい。

発言者2：市民会館について

- ①利用方法について。調律師の入場方法について、支払証明がなくても入れる等の融通をきかせてほしい。
- ②けやきフォーラムの利用区分が時間単位であるのは良いが、30分単位だとさらに使用しやすいので検討してほしい。
- ③市民会館運営委員会を市民の代表でつくってほしい。
- ④市民会館の企画は市外から呼ぶケースが多い。地元アーティストをもっと有効活用してほしい。

市長回答：①②団体の意向もあるが、運営上の問題もあるため、担当課に確認して可能かどうか検討したい。

③芸術文化振興については、市民の方にも参加してもらいたいので、今後条例を作っていきたい。その中で運営委員会も併せて検討したい。

④市民会館の企画については、市民の方では主催が難しい企画として、有名なアーティストを呼んで市民に楽しんでもらいたいという考え方がある。それも一つの芸術文化の役割であると思う。市には音楽祭等、さまざまな事業があるため、それらの事業を整理する時期に来ていると考える。若手アーティストに活躍してもらう場の提供を含め、条例の制定等が必要だということを改めて感じた。

発言者 3 : 秩父市出身でイラストレーターをしている。

若者の地域離れの解消のため、地元出身者のイラストを活用して秩父地域を盛り上げ、次世代につなげるため、課題を 4 つ挙げたい。

①絵を描く若者は多数いるが、秩父を名乗るイラストレーターが少ない。

②7 月のチャレフェスに参加した。若者がたくさん来たが、活躍の場がないとの話が多かった。

③3/2 秩父のでっかい夢を語る会で、市長がおっしゃっていた、流域単位での協力体制で秩父がリーダーになるという考え方で、秩父のイラストレーターが旗振り役になることはメリットがあるのではと考えた。

④秩父地域が先陣をきってイラストレーターの活躍の場を作れば移住者も増えると考える。

市長回答 : 地元のイラストレーターの活躍は非常に興味深い。個人の SNS に行政がどう関わっていくか、ご意見をお聞きしたい。また、別の事業ではあるが、秩父を PR してくれる応援団作りを考えている。その中に入れなにかと考えた。

発言者 3 : イラストレーターの作品を購入できる販売会は東京で行われることが多い。若者が東京まで行くのは金銭的に負担が掛かるので、市民会館など地元で販売会ができると良い。

市長回答 : 今後もさまざまな提案をしてほしい。できることは協力したい。西武線沿線や豊島区等との連携も考えられるのではと思った。

発言者 4 : 市民音楽祭について、今年度は予算をいただけなかったが、今後も頑張って続けていきたいため、来年度以降ぜひ予算をつけていただきたい。

市長回答 : 予算がつかなかったことに関しては、学校の参加が少なくなった等の経緯があることは承知しているが、市民音楽祭は重要だと考えているので、やり方を変えても継続していきたい。もう一度市民音楽祭の位置づけをし直し、開催について検討していきたい。

発言者 5 : 市民全戸に配られているホールレターが効果を発揮していない。市内全ての催しが一つにまとめたものを作ってほしい。

市長回答 : ホールレターは市民会館の事業をまとめたものである。もう少し幅が広いものを作っていくことも今後検討していく中に入れていきたいと考える。

発言者 6 : 発言者 1 の博物館について補足でお願いしたい。

秩父は自然も文化も豊かである。博物館をつくることで、今までの歴史が蓄積され、これからのものが継ぎ足されていくと考える。

一つ残念な話があり、銘仙を集めていた方がいたが、秩父には展示、

保管する場所がないため、埼玉県立歴史と民俗の博物館に寄贈されると聞いた。博物館を作ること、そのようなものも集められると考える。

市長回答：銘仙については、残念なことではあるが、保存環境が整っている県の施設に保管されるため、文化財にとっては良いことと考える。

未来に向けて施設を集約していくべきだと考える。

発言者 7：昨年芸術系の大学を卒業し、先月秩父に移住してきた。

秩父は芸術家にとって魅力的なまちである。遊びに来る芸術家の知り合いも秩父を好きになっている。魅力を周知する機会が少ないので、もっとPRした方が良い。

市長回答：芸術活動を支援する中間支援団体の必要性を考えている。

行政で全てを行うのは難しいので、NPOや一般社団法人、財団などの母体を作って秩父市も支援をしながら、芸術文化についてさまざまな支援ができると良いと考える。

発言者 8：5年前に東京から秩父市に移住した。

先週藤岡市の鬼石地区のアート祭りに行き、感銘を受けた。外国人も多く地元の芸術家と交流もあった。秩父市でも同様の取組みができるのではと考えた。

市長回答：鬼石の祭りについては興味深く思っていた。こういったことが秩父でもできる場所だと考えているので、みなさんの知恵をお借りしながら考えていきたい。

発言者 9：秩父で生まれ育った76歳。移住者の意見を伺いたい。

発言者 7の方に秩父の魅力を具体的に教えてほしい。

発言者 7：都心へのアクセスの良さが大きい。この立地で芸術創造ができる広い作業場が得られることが魅力的である。また、ただの片田舎ではなく活気がある。観光地らしくないところも良い。

発言者 9：市長へお聞きしたい。秩父には文化、遊び場、病院等全て揃っていると書かれた、あるSNSを見たが本当だと思うか？

市長回答：文化論になるが、秩父市はかなり特殊な地域であると思う。もともと独立した国であった。地理的、地形的にも独特の文化と風土があるため、神社、鉱物、農作物等さまざまなものが、小さいながらも多種多様であると考え。それだけ魅力がある町であると考え。

発言者 10：秩父の催しについて、ホールレターのように一つにまとめたものがほしい。市民だけでなく、観光客にも良いと思う。

小さい資料館が散在しているので、集約すれば新しいものを作らなくても良いのではないかと考える。

市長回答：皆さんがほしい情報をまとめて発信することは大切。行政ですべて作る

ことは出来ないので、先ほどお話しした中間支援団体を作って、その中で作っていただけたら良いと思う。公共施設については、今あるものを全て将来にわたって維持できるわけではないので、集約を含めて検討していきたい。